

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき



平成30年10月30日

No.31

校長 坂野修一

VF甲府サポーターの独り言…



10月も明日で終わり。巷はハロウィンで盛りあがっています。特に、渋谷の賑わいをニュースで見聞きしますが、みんなとても楽しそうです。しかし…。傍若無人な一部の人間の行動が、せつかくのハロウィンに水を差します。缶、ビンなどのゴミが散らかり、挙げ句の果てには軽トラまでひっくり返すなど言語道断。早川南小の子どもたちには、あの映像がどう映っているのでしょうか？明日が本番の31日。「モラル」「節度」というものを考える教材かもしれません。是非親子で話題にしてみてください。

さて、VF大好きな私の独り言…。よかったら最後まで読んで下さい。

【弱い時こそ応援する】

私がVF甲府の試合を見に行くようになったのは2002年シーズンの途中から、シーズンチケットを購入し、用事がなければ毎試合見に行くのが当たり前になったのは2003年シーズンからです。何連敗しようが、下位に低迷しようが、「今日こそきつと勝つ！」と信じ、小瀬に足を運び応援します。J1時代はたまにしか勝たないので、勝った時の喜びは言うまでもありません。(今年はJ2だったから、もっと勝ち試合が見られると思ったのに…(泣))

【最後まで応援する】

後半40分あたりを過ぎると、帰路に向かう人たちがいます。負けている試合ならその数は増えます。でも、絶対に試合が終了するまで帰りません。勝ったら勝ったでヒーローインタビューまで見て、さらには「ヴァーンフォーレ、チャチャチャチャチャ」と賞賛のコールや手拍子をします。無様な試合で負けたり引き分けたりすると、容赦なく厳しい声をかけます。

【叱咤激励】

前述のとおり、だめな時は、本当に厳しい声をとばします！相手選手の悪質危険なプレーにはなおさらです。連れ合いと見に行くと、それを連れ合いは嫌います。そして、週末ごとに小瀬に行き、大きな声で声援をします。時々ある水曜ナイターの日には、朝からテンション高め。定時退勤で小瀬に直行です。アウェイの試合では、DAZNでやっぱり応援です。そんな繰り返して、はやくも17年目を迎えました。

【移籍した選手も忘れない】

サッカー選手は、所属チームを替えることが多いです。選手生命の短いサッカー選手にとって、少しでも給料が多くもらえ、また、出場機会が得られそうなチームが見つければ移籍します。VF甲府を去ってしまっても、1年でも在籍していれば愛着があります。決して忘れません。(森保ジャパンの伊東純也選手や佐々木 翔選手は、「VF甲府が育てた」と勝手に思っています)

【弱い時こそ応援する】…元気がなさそう、悩み落ち込んでいる子どもに寄り添う。

【最後まで応援する】…子どもの可能性を最後まで信じる。

【叱咤激励】…だめなことはしっかり叱り、良かったことはしっかり褒める。

【移籍した選手も忘れない】…教え子の進路はずっと気にしている。いつまでも見守り応援。

VFのサポーターと学校の先生を、ちょっと強引に結びつけてみました。ただ言えることは、愛情がなければ、そして何とかしようという気持ちがなければ続けることは困難です。残念ながらVFの今季J1昇格は絶たれました。しかしリーグ戦はまだ続きます。リーグ戦終了後には、天皇杯準々決勝が小瀬であります。VF甲府というチームがある限り、私は全力で応援します。いつかJ1に復帰することを信じて…。